

衆議院国土交通委員会ニュース

平成 20.11.14 第 170 回国会第 3 号

11 月 14 日、第 3 回の委員会が開かれました。

- 1 特定船舶の入港の禁止に関する特別措置法第五条第一項の規定に基づき、特定船舶の入港禁止の実施につき承認を求めるの件（内閣提出、承認第 1 号）
- ・金子国土交通大臣、北村防衛副大臣、御法川外務大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
 - ・採決を行った結果、賛成多数をもって承認すべきものと決しました。
- （賛成 - 自民、民主、公明、国民 反対 - 共産）

（質疑者及び主な質疑内容）

鷲尾 英一郎君（民主）

前進が拉致問題解決の妨げになると考えているのか。

- ・米国の北朝鮮に対するテロ支援国家指定解除など外的環境が変化しているが、現在日本政府が実施している経済制裁について、どのように評価しているのか。
- ・北朝鮮が本当に困る圧力をかけるため、政府として追加制裁についてどのような検討を行っているのか。
- ・対馬において韓国人旅行者等による問題が生じているが、この問題に一括して対応するところは観光庁しかないのではないのか。大臣主導で対馬問題に対応することについての見解を伺いたい。

川内 博史君（民主）

- ・平成 19 年 11 月 20 日の日中韓首脳会談の共同声明で拉致問題についてどのように言及されているか。今年 12 月に再度行われる日中韓首脳会談においては、拉致問題について両国の理解と協力を得るとともに、具体的な協力内容まで詰めてほしいと思うが、外務省としての方針はどうか。
- ・アメリカとの関係においても、首脳会談の共同声明に拉致問題への協力が盛り込まれるよう努力すべきでないか。
- ・トカラ列島における米軍の低空飛行訓練については取りやめるよう、申し入れるべきではないか。

穀田 恵二君（共産）

- ・北朝鮮に対する入港禁止措置、制裁措置の目的やこれをとった理由はどのようなものであったのか。
- ・制裁措置を講ずる契機は北朝鮮の核問題であったと考えるが、これに関し、最近進みつつある核施設の無能力化等の動きをどのように見ているのか。
- ・核問題の前進は我が国の拉致問題解決にもその進展を促す新しい条件になり得ると考えるが、北朝鮮の核問題の